

この地はいつも春景色でありますが。故國は紅葉狩のたいなかと存じます。今霄も一瞬三萬里、教へ子たちと夢遊の遠足をいたしませう。(完)

新刊案内

家庭母のみやげ 全一冊 東 基吉編
童話

大々的豫告の出た本書は先月始め出版されたと申す事で、此頃著者東君から一部贈られた。打ち見た所和装の美本で、開巻先づ岡田三郎助氏の三色版の美麗な口繪がある。頁数は二百頁に餘り、凡べて五號文字の總振り假名附き、所々に面白い挿繪も随分多く這入つて居る。

大體の体裁はざつと右の通りで、さて中はどうかといふと、いろ／＼なお伽話の數三十七八種其他

には、所々に紙細工や、一口噺や、室内遊戯などを收めて居る。著者は豫て人の知る通り永くお茶の水幼稚園に居られて、幼児の保育といふ方に専心従事せられて居る人、吾々は此の類の書物の出ることを久しく著者に囑望して居たのである。従つて、本書 お伽話の選擇にも、多大の注意を拂はれたと見えて、大抵子供の嗜好に適當した様な、無邪氣で面白い教育的な、そして最も耳新しい類が、澤山集つて居る、勿論、我輩は著者と同じ様に教育的といへば、何でも乎でも小學校の修身の實例の様なもの許りを望むのではない。悪い例を與へないで、子供に愉快と満足とを與へてそして相當に經驗界を擴げて行けさへすれば夫が即ち教育的であらうと思ふ。之に付いても思ひ起す事は、從來教育の方の頭のない人の手になつたも

のは、随分言葉使ひなどが亂暴で、子供等がお伽話からして、悪い言葉使ひを覚えて困るのであつたが、さすがに著者はこの點にも注意が行き届いて居る様である。

尙「母のみやげ」といふ名前も頗る面白い、かつ母さんのみやげといへば、それ菓子とか菓物とかといつて、子供の胃腸を害する様なもの許りであつたが、母のみやげとして、著者が新に子供の爲めにお話の材料を世の母親たちに與へられたのは、子供の親達に取つて、まことに親切といはねばならぬ。クリスマスや歳暮の贈りもの、さては新年の年玉として子供のゐる家庭などへ送るには、頗る適切な品だと思ふ(神田、表神保町二同(や、こ評)文館發行定價六十錢)

我子の養生全 關 以雄著

前に「我子の悪徳」といふ書物が出て、一時大分歡迎せられたる彼に、著者は變れと更に「我子の養生」といふ書物が同一の書肆から發行せられし

たが。然し、前者と同じ様な考で以て本書を御覽になると大分趣……といつてよいか……が違ひます。第一 題目が内容に釣り合つて居ない様ではないかと、申すのは、本書は一般の衛生上のことを叙述したものに見られます。先づ身體の衛生と精神の衛生と道樂の衛生(?)とに分け終りに勸語の御趣旨を衛生の方から講せられて居る、夫が、どうも子供に特殊な場合々に就いては、たゞ一丸の衛生を、然もバツと理論的に、書かれて居るのですから、丸で興味が乏しくなつて居ます。故に一沈の衛生上のことを知らんとするには、一論

しても宜しいでせう。

第二 文章が雜駁なことは本書にとつて第一に遺憾とする所でせう。言文一致體と文章體との雜然たる混合文だといつて宜しい。著者は、日本私立衛生會の編輯主任であるといへば、今少しこの點にも注意して欲かつたと思はれます(定價四十五錢)(發行所全所)

(牧羊評)

先世 月一回發行

出るものもく星とかすみれとかのハイカラ雜誌の中に、生れ出たのは先世といふ眞面目な雜誌、其第一號は、御世と共に長へに榮えよとてか、先月三日の天長節に出た。齋田博士の日本の紅葉、池田博士の食鹽の話、斯波貞吉氏の米國の富などが講話中の重要なもので、其他發明特許彙報とか、

雜錄欄頗る豊富である。通俗に科學の智識を普及せしめる事の我國に頗る必要なる今日、通俗學術と銘を打つて眞面目に、この方面に貢献せんとする本誌の出たのは頗る多とすべきである。吾等は家庭に向つてこれを勸める、而して小學校、女學校の先生方に向つても、大に之を勸めるのである(定價一部十五錢 發行所 神田駿河臺北甲賀町先世社)

靈火 全一冊 眞宮起雲著

本誌短歌の選者眞宮君の澎湃たる詩想の溢れ出でたるものが、斯道の暗黒界を照らすべく、こゝに靈火といふ一冊となつて世に出たのである百頁の珍袖の小冊に、而も收むる所の短歌數百首
あさ窓に劍さすりてうたひ見む正氣の歌や活ししらむめ

取るべきもはたすつべきもわれにあり天地これや皆歌の領

月の精こよひ白衣の若人とゆめに入りませほだい樹のかけ

酒さげて雲助かへるこの夕べ關のふるみち秋かぜ寒き

斯道に志ある人、一本を座右に置かば利する所

多からん（定價十五錢 發行所 伊勢稻生村みど

り短歌會）

保育者のため

幼稚園幼兒の机とその并べ方

東基吉 君 談話

子供の机は小學校と同じ様に、机腰掛もつながつた二人掛のがよいか、夫とも兩方から向ひ合はせに八人位共用の卓子にして腰掛を別に一人掛のか二人掛のかを離してするのがよいか、又排べるにも小學校の様にならべざるがよいか、或は卓子にて

四所位に八人位つゝ一團にさせるのがよいであらうか。

これに付いて、私は机腰掛は從來の小學校風でなくつて、八人位共用の卓子と一人か二人掛の腰掛を別にするといふ側のにしたたいと思ひます。

従つて排べるにも、小學校の教場の様でなく、四十人の一組ならば、八人つゝ一の卓子に向つて一室の五所にかたまるといふ風がよいと思ふ。

第一今迄の様に机腰掛からその排べ方を小學校の様にすると、どうも室が丸で教場の様で保育が個人的よりか一齊的になる傾が免れない。夫に見た所保育室らしくなくつてどうしても嚴格な教場の感じがする。も一つは其爲めに室が丸で机腰掛のために占領せられて、他に遊戲室でもない場合に其室を利用していろく遊戯などをやるといふに